

## 目黒界限散策

秋は10月20日、栗林君の発案、地元の三海・阿藤君の計画で目黒界限散策となった。参加者は栗林君、三海君のほか初参加の地元の阿藤君と常連の亀田君、藤保君、野村さん、私の7名である。

目黒駅は駅ビル「アトレ1・2」ができて、遠い昔に降りた経験しかない私は方向音痴になりそうだった。

生憎、誰の心掛けが悪いのかひどい風雨で当初の計画にあった自然教育園、池田山公園、元競馬場跡、林試の森公園などには行かず、行程の半分くらいに短縮する。

目黒の地名の由来は、領主目黒氏から命名されたとか馬畔説、「め」は「谷・窪」、「くろ」は「嶺」の地形説、江戸には目黒・目白（豊島区高田・金乗院）・目赤（文京区本駒込・南谷寺）・目黄（台東区三ノ輪・永久寺）・目青（世田谷区太子堂・教学院）の五不動があって目黒不動説があるが、江戸っ子としては庶民的な目黒不動説を勝手に信じたい。

駅から西南方向、江戸時代の権之助坂（新坂）ができる前に、目黒から江戸府内に入る急坂で目黒不動の参詣道だった行人坂を下る。

行人坂は江戸時代初期に行人と呼ばれた出羽湯殿山の修験僧達が坂の途中に大日如来堂を建てて日夜修業に励んでいたことから命名されている。坂上には富士見茶屋等遠景を楽しめた場所があり、天気の良い日には今も富士が見えるらしい。

行人坂の途中で明和9年（1772）に明和の大火の火元となり江戸城の物見櫓を含めて江戸の1／3を焼失させてしまった大円寺がある。大円寺には3日3晩燃えた大火の犠牲者の供養のため50年余かけて作られた520体の石造の五百羅漢像がある。



江戸唯一の石造五百羅漢

また、八百屋お七の相方の寺小姓吉三、出家して西運上人と改めたお墓がある。西運は現在の雅叙園（地）の辺りにあった明王院で念仏修行に励み、浅草観音へ千日参りをして集まった浄財を行人坂や太鼓橋の整備に使ったという。

しかし、幕府が大火の責任として大円寺の再建を1842年まで許さなかったことも頷ける。雨足が酷く、吹き降りになってきたので雅叙園に避難する。

雅叙園は元祖回転式テーブルを発案して繁盛し、昭和の初めに芝浦から目黒に移転した結婚披露宴会場、いまはチャペルまで設けている。改築されたが、昭和の初めの雰囲気や壁や高い天井の極彩色の鏝絵や彫刻、朱塗りの廊下、昭和10年建築当時のままの木造百段階談等が日本調の雰囲気を出している。

雨にもメゲズの心境で目黒川に架かる太鼓橋を渡る。目黒川の兩岸の桜並木も落ち着いた風情で、紅葉もさぞ美しいだろう。太鼓橋は西運上人が橋上の棧を架けたといわれ、横から見ると太鼓の胴に似ているということで命名され江戸名所図会にも描かれている。大

正9年に豪雨で流失し昭和7年に再建され平成3年に現在の鉄橋となっている。

雨に濡れない五百羅漢寺に行く。

五百羅漢寺はもともと本所にあったもので、元禄時代の開祖松雲禅師が10数年かけて530体余の木彫りの羅漢像を彫ったもので、安政の大地震で衰退したが明治41年に目黒に移転し、305体が現存している。

目黒不動尊に行く。808年に慈覚大師が創建し関東最古の不動霊場が徳川家光の庇護を受け、以降徳川幕府の保護を受けたという由緒ある不動尊である。

門前に白井権八と後追い心中した吉原遊女小紫の塚、2.26事件に関与したとされる北一輝の碑、本居宣長の子孫で「十五夜お月さん」等を作曲した本居長世の碑及び目黒に隠居した青木昆陽のお墓がある。これらは目黒不動尊とは関係のない建造物であり、ここにあるのが不思議だ。

雨が一層強くなり、上着も濡れ寒くなってきた。そこで目黒不動通りの「八つ目やにしむら」に飛び込み、八つ目ではなくうな重を食べる。

ここの鰻は目黒の地下水で打たせて余分な脂を落とし、秘伝のタレと上質の備長炭で焼き上げた江戸前鰻が売りで美味だった。

雨風に悩まされたが、目黒にこんなに寺院あるとは知らなかった。やはり日本は仏教国だ。満足感を持った1日だったが東急（目黒）不動前駅で解散する。（三海・井田 記）



JR 目黒駅・行人坂・大円寺・太鼓橋・目黒川・海福寺・龍泉寺・東急不動前駅など